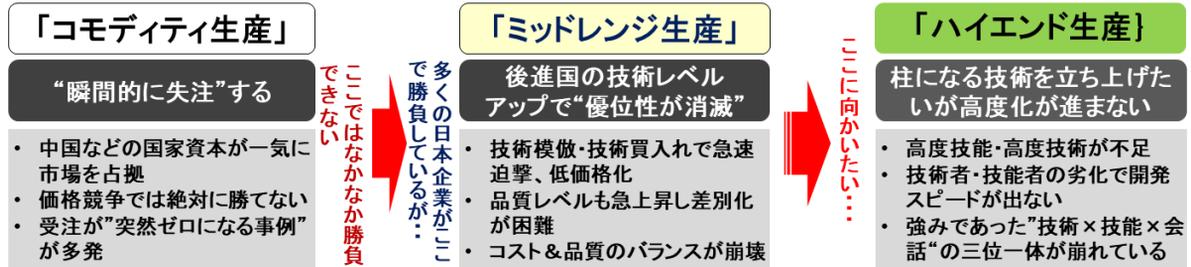


究極の技術・技能の活用法

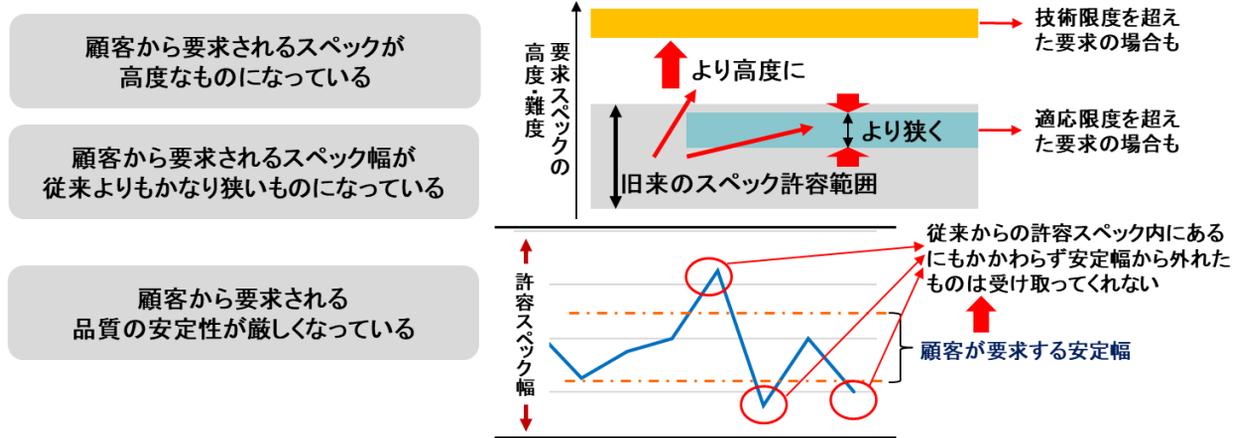
【先端DXと人財力による「最強ファクトリー創生」への挑戦】 セミナー

～先端DXは人財力がないと活用できない～



さらに
顧客要求は厳しくなるばかり.....

顧客の要求が高度化し、従来の対応では対処ができない



いま、日本の製造業は“静かな崩壊”の只中にあります。「あっという間に受注が奪われる」状況は、もはや例外ではなく日常となりつつあります。

コモディティ製品は国家資本の圧倒的な投下によって市場を席巻し、同質化された製品が世界中を埋め尽くす構図が加速しています。

さらに、かつて後進国と見られていた国々の技術力が驚異的なスピードで日本を追い越し、ミッドレンジ技術の領域ですら優位性が崩れ始めています。これは単なる競争激化ではありません。

「誰でもできる標準化生産」そのものが、世界市場で通用しない時代に入ったということです。

大規模資本の薄利多売に対し、従来の延長線では勝ち目がありません。

一方で、日本の強みであるはずの技術・技能は、人手不足と技能者の大量退職によって急速に失われつつあります。求められるスペックは狭く高度化する一方で、それに応えるための知的資産は減少し、積み上げてきた遺産を食いつぶす“消耗戦”が続いています。

- ・ なぜ技能伝承が進まないのか
- ・ なぜDXテーマが空転するのか
- ・ なぜ現場の思考力が弱っているのか
- ・ そして、どうすれば現場の力を再び取り戻せるのか

本セミナーでは、これらの問いに対し、現場の実態に則し、豊富な経験、先端のコンサルティングノウハウに基づいて、「本当に必要な変革」を明確に示します。

従来の改善活動やDX導入では決して届かない、現場起点の本質的な変革をお伝えします。

【概要】 課題と方向性を丹念に解説

製品技術・生産技術・品質保証のフルスタックで対応しているにもかかわらず、クレームに対処できない 顧客要求に答えられない

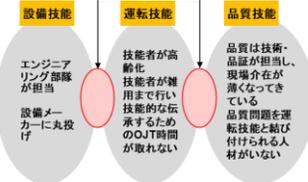
技術の無理解・技能喪失

技術の意味が理解できず、顧客要求やトラブルに対して根本的な対応ができない現状

さらに

コスト省人化、行き過ぎた人減らしの結果
互いの「技術・技能」を
理解できなくなってしまった

のり代がなくなってしまった



現場と技術の間で「技術的会話」が
成り立たなくなってしまった

現場は「技術部門」に言われたとおりにしか動かない

「生産技術」「製品技術」「品質保証」の技術者は現場技能がさっぱりわからない

作業長クラスの実力低下

マイスターが力を発揮しなくなった

トラブルや顧客のクレーム、要求に対し、現場、技術部門フルスタックで対応しているにもかかわらず、問題がさっぱり解決しない

後継者を見つけ、育てたいと思っても、どこから手をつければいいのか分からない

製造部長、執行役員など、管理者・幹部クラスが、省人をして育成をしたことがない

技術・技能を“人”に実装する方法が組織に存在しない

人手不足で効果的な活用時間を持つことができない

教育は行いが育成を行えない
今まで育成はOJTでしか、したことがない

DX技術を導入し、技能と人材の底上げを試みてはいるものの

資格取得活動
座学教育はできるが

OJT以外の方法で個々に技能を習得させた経験がない

システム・自動機導入が目的化して、現場の課題は置き去りに

OJTが出来ていたころの技能者

品質保持・トラブルの「判断」と「対処」を伝承しようとしていた

省人後の管理者

育成をワーキング手順の教え込みと勘違い

技能が伝承されず活動がスタック効果が出ない

実務を知らない、ITベンダー・コンサルに頼っても、活動は空転

製造業の現場では、人材不足・技能伝承の停滞・早期離職が深刻化し、DXや自動化への期待だけが先行しています。しかし、現場に“実践の智”がなければ、どれほど投資しても成果は生まれず、技能の根は静かに崩れ続けます。実際、先進企業で200件以上のDXテーマが検討されながら、実効性を持って定着したのはわずか2件でした。「ボタンを押せば良品が出る」という誤認が広がる一方で、思考力は低下し、AIの誤情報を見抜く力も育たず、現場は迷走しています。ツール提供に終始するITベンダーや、現場経験の乏しいコンサルでは、導入後に機能しない・定着しないという失敗が繰り返されています。部門間の認識のズレも改革を阻み、プロジェクトは空転します。この混迷は突然始まったものではありません。

日本の製造業が世界を制した時代、その強さを支えたのは、「技術・技能 × 人 × 対話」の三位一体でした。ところが、効率化と自動化の波によってこの三位一体は分断され、技能の根は弱り、技術の意味が現場に伝わらなくなりました。

失われた三位一体

日本の製造業が世界を制した時代、その強さを支えたのは

「技術・技能 × 人 × 対話」の三位一体でした。

- ・ 効率化と自動化の波でこの三位一体が分断され
- ・ 技能の根が弱り、技術の意味が伝わらなくなった

技術・技能 × 人 × 対話
= 日本の製造業
黄金期を支えた構造

「Gemba創生」は、この“失われた構造”再構築する取り組みです

失われた三位一体を、DXと実践知で再構築

技術・技能の再強化

レガシー再認識

人への再実装

技能伝承
人財育成

のり代
つくり

運転技能

対話

品質
技能

設備
技能

技術的会話
の仕組み

実践知を活かす運用設計と
活用の超実践化

DX2.0

- ・ デジタルツイン
「見る」から「課題に切り込む」活用へ
- ・ 社内Wiki/エンサイクロペディアの構築
社内の智慧の再活用
- ・ 技能連携システム
社内の智を連携。いつでもどこからでも
- ・ 試作・トラブル対応の知見をDXで拡張
試作能力のスピードアップ、トラブル対応力の強化

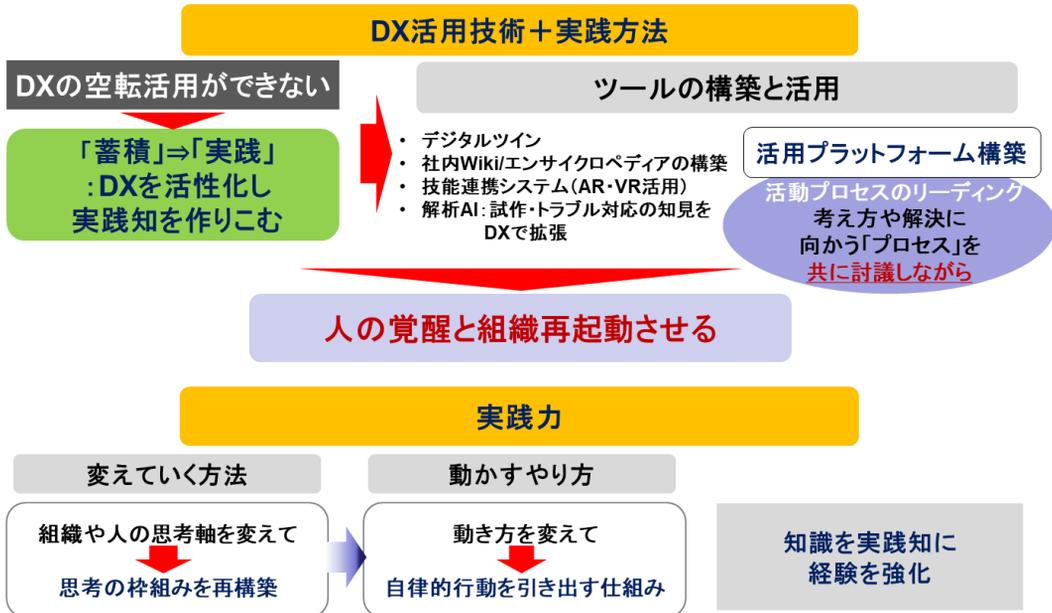
本セミナーは、「技術・技能 × 人 × 対話」この“失われた構造”をDXと実践知で再構築する取組を解説します。

「Gemba創生」プロジェクト

【セミナー内容】

「Gemba創生」は、「技術・技能×人×対話」の三位一体、この“失われた構造”をDXと実践知で再構築する取り組みです。製造業が今後向かうべき本質的な考え方を提示、「実際例」を伴って具体的な解決策を解説いたします。

失われた三位一体を、DXと実践知で再構築



【講義内容】

1. 前提: 製造業が抱える課題

- (1). 取り巻く環境
- (2). 人財不足と意識の変化
- (3). ボタンを押すだけの人間がなぜ増えたのか
- (4). 失われた「技術・技能×人×対話」三位一体
- (5). 技能を再認識、会話をすることの重要性

2. トラブル解消・生産試作・量産試作 高速化 課題の考察

- (1). 事例から見る技術技能課題
- (2). DX・自動化により技術の重みづけ変化: 進化にはレイヤーがある
- (3). 技術の重みづけ変化
- (4). 自動化、DXを重要技術として動かす方法と体制
- (5). トラブルにおける会話の仕方、試作時の会話の仕方
- (6). 洞察を導き出す話し合いの場(カンファレンス)の意義と進め方

3. DX化で学ぶべき技能・知識・技術・過去トラ対処などの人財力向上法

- (1). デジタルレイヤーによる方向性: DXツールは人が考えないと動かない
- (2). デジタルツイン、事典化、Wiki化による、情報の共有化
- (3). DXツールによるトラブル解消、試作成功のスピードアップ
- (4). ロボットプログラムのロス事例に学ぶ、身に付けるべき技能とは
- (5). 生試・量試、イノベーションの具体化: 解析系AI活用によるトラブル解消、試作成功率の向上、現場からの実験制御要因フィードバック
- (6). 体制構築の注意点

4. 質疑応答

【キーワード】

人材不足 技能伝承 熟練技能者 暗黙知
 形式知 過去トラ 設備トラブル 品質問題
 AI デジタルツイン スマートファクトリー
 コアコンピタンス イノベーション

「Gemba創生」プロジェクト

製造の未来を支える、社会価値醸成・社会貢献プロジェクトを始動させました

一般社団法人製造業総合支援 (GSSG)

特徴・強み: エキスパート集団

- ・大手製造業の生産現場を構築してきたシニア集団
- ・20年にわたる製造業支援実績
- ・次世代に実装される体系化された技能伝承ノウハウ
- ・人材育成を現場で実践してきた経験値



株式会社スモール・ワン

特徴・強み: 先端コンサルティング

- ・30年積み重ねた高度なコンサルティングによるDX・AI・自動化を“使いこなす現場”へ導く運用支援
- ・大規模システム導入とインテグレーション実績
- ・現場に定着する“成果直結型”の支援スタイル

私たちは、製造業の現場で成果を上げてきた実践者集団です。技能強化・自動化設計・人材育成を一体で進め、多くの工場に結果を残してきました。実務経験のないITベンダーや一般的なコンサルティングでは本質的改革は進みません。私たちは、現場の痛みと制約を理解し、技術の限界に向き合って改善を実装してきたプロフェッショナルです。最新の知見を備えた専門家と、大手製造業で実績を持つ技術者が連携し、持続的成長を実現する再現性あるプログラムを提供します。単なる助言ではなく、成果が出るまで伴走することを重視しています。

Executive Director 藤平俊彦

大手食品メーカーなどで、主として生産技術に従事。1996年コンサルティング会社 株式会社アルファブレーションコンサルタントに入社。2002年同社取締役就任その後、トーマツコンサルティング株式会社 (現デロイトトーマツコンサルティング)、日本オラクルを経て、現職。

Chief Expert Officer 武田俊一

大手化学メーカーにて、積層板関連の製造・品質管理、技術営業、その後全社のシステム構築に従事。退職後、GSSG参加、現職。多数の製造業経営指導に取り組み、企業を支える。

【講師経験】 日鉄ケミカル&マテリアルズ フジクラ レゾナック デンカ 大建工業 UBE 積水化学工業 キューピー DIC 第一工業製薬 日本曹達 セイコーエプソン 雪印種苗 東芝テック 三菱ガス化学 信越ポリマー 日清オイリオグループ カルビー ゼブラ JXエンジニアリング 片倉コープアグリ 宇部エクシモ etc.

【開催要領】

| | |
|------|--|
| 開催日 | 2026年4月17日 (金) 10:00~16:30 |
| 開催場所 | 小山台会館 205号会議室 東京都品川区小山4-11-12 |
| 主催 | Gemba創生プロジェクト |
| 受講料 | 10,000円 |
| 申込方法 | 下部の受講申込書へご記入の上、Web、電話・FAXにてお申込みください。 |
| 申込先 | Gemba 創生プロジェクト 事務局 〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-7-5 池袋パークタワー703 株式会社 スモール・ワン内 Tel:03-5950-2150/ Fax: 03-5950-2151 |



参加申し込み WEBでのお申し込み: <https://www.smallonex.jp/c>

FAXでのお申し込み: この用紙に記入の上 03-5950-2151 まで、送信お願いいたします。

| | | | |
|------------|---|-----|--|
| 貴社名 | | | |
| ご住所 | 〒 | | |
| フリガナ | | | |
| 御氏名 | | | |
| 御所属 御役職 | | | |
| E-Mailアドレス | | Tel | |